

なぜ十字架は、ユダヤ人にとってつまずきなのか?

アミール・ツアルファティ

-ユダヤ人は十字架のメッセージを、いつ受け入れるのか-

YouTube：[なぜ十字架は、ユダヤ人にとってつまずきなのか?](#)

皆さん、シャローム!

今回は、とても短いメッセージになります。ユダヤ人が十字架に対して抱えている問題を、深く掘り下げようと試みるつもりもありません。なぜなら、この二千年間の歴史全般について話す必要があるからです。しかし、3つの主要な話題について手をつけてみようと思います。1世紀のユダヤ人が、十字架に対して持っていた問題。ユダヤ人が、一般的に十字架のメッセージに対して持っている問題。そして、ユダヤ人が、十字架を背負う者に対して持っている問題。まず最初に、ルカによる福音書24章から始めたいと思います。

「さて、そこでイエスは言われた。『わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。』『必ず全部』、一緒に言えますか?『必ず全部成就するということでした。』わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、」 (ルカ24:44-45)

という事は、イエスは聖書を開く必要はなかったのです。なぜなら、聖書はすでにあり、イエスが開かれたのは、彼らの理解だったのです。彼らが、すでに書かれている聖書を理解できるように。それは、安息日ごととに彼らの前で朗読されていました。「こう言われた。『次のように書いてあります。』いいですか。これは、よみがえられたイエスで、もう、そこから去り、弟子たちを残して行かれようとしていました。それから使徒の働きが始まります。ここで、弟子たちに語られるイエスは、弟子たちが、苦しみを受けるメシアという概念をなかなか受け入れられないのを理解していました。

「こう言われた。『次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、…』」 (ルカ24:46)

イエスは、弟子たちに言われました。聞きなさい。これは、他のやり方では、出来なかったのです。他の状況では、あり得なかったのです。これは、ミスでもなければ、偶発的な事でもありません。メシアが苦しみを受ける事は、必要だったのです。イエスが弟子達に言われた事が、分かりますか?イエスが言われた事は、基本的にこういう事です。あなたがたが見ているのは、次善の策ではありません。これは、定められていた事なのです。キリストが苦しみを受け、死人の中からよみがえる事が、必要であり…、

「『その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。あなたがたは、これらのことの証人です。さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものを、あなたがたに送ります。あなたがたは、(中略)、都にとどまっていなさい。』」 (ルカ24:48-49)

イエスは弟子たちに言われました。聞きなさい。あなたがたには、ここに留まっていて欲しい。ここ、エルサレムに留まっていなさい。

「『いと高き所から力を着せられるまでは、』」 (ルカ24:49)

ですから、イエスは、弟子たちにはっきりと言われました。十字架につけられる事は、当時のローマにあった、最も恐ろしい死刑方法でした。十字架にかけられた人は、すでに死んでいればよかったのに、と望んだのです。十字架は、長時間にわたる拷問でした。でも、イエスは言われました。見なさい。これは次善の策だとか、違う展開があり得たと考えてはいけません。これは、本当に必要な事だったのです。その前の節を

覚えているでしょうか。イエスは言われました。必ず全部成就する、と。(すべての事は、成就されなければならない) さて、ここで8つの点を通して、いかに十字架が、旧約聖書の預言の成就であったかを説明し、それから、最初にお話しした、3つの主要な問題を見てみたいと思います。最初に、イザヤ書53章の預言にこうあります。

「彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほど、さげすまれ、私たちも、彼を尊ばなかった。」(イザヤ53:3)

それからもちろん、ヨハネの福音書1章10-11節です。

「この方は、もともと世におられ、世は、この方によって造られたのに、世は、この方を知らなかった。この方は、ご自分のくにに来られたのに、」ご自分の国、ユダヤの人々です。「ご自分の民は、受け入れなかった。」(ヨハネ1:10-11)

ですから、イザヤの預言は間違いなく成就しました。イエスの初臨において、公生涯を始められた時に既に。詩篇41篇9節にはこうあります。

「私が信頼し、私のパンを食べた親しい友までが、私にそむいて、かかとを上げた。」(詩篇41:9)

そしてもちろん、マルコの福音書14章。

「ところで、イスカリオテ・ユダは、十二弟子のひとりであるが、イエスを売ろうとして祭司長たちのところへ出向いて行った。」(マルコ14:10)

覚えていますか。イエスは、最後の晩餐の時に知っておられました。イエスは言われました。“わたしがパン切れを浸して与える者、彼がわたしを裏切る者です”、と。そのパンとは、詩篇41篇で述べられているものです。私のパンを食べた友、それはユダでした。ゼカリヤ書11章12節にはこうあります。

「私は彼らに言った。『あなたがたがよいと思うなら、私に賃金を払いなさい。もし、そうでないなら、やめなさい。』すると彼らは、私の賃金として、銀三十シケルを量った。」(ゼカリヤ11:12)

とても興味深いですが、マタイの福音書26章にこうあります。十字架に掛けられる場面での事ですが、

「そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテ・ユダという者が、祭司長たちのところへ行っ、こう言った。『彼をあなたがたに売るとしたら、いったいいくらくれますか。』すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。そのときから、彼はイエスを引き渡す機会をねらっていた。」(マタイ26:14-16)

50枚という事もあり得ました。でも30枚だったのです。なぜなら、それは、このことばを使いましょう、「必要な事だったのです」。それは、必要な事だったのです。すべて、成就しなければならなかったのです。

4番目。聖書のイザヤ書53章7節の預言にこうあります。

「彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。」(イザヤ53:7)

そして、成就したのは、もちろん、マルコの福音書15章5節です。

「それでも、イエスは何もお答えにならなかった。それにはピラトも驚いた。」(マルコ15:5)

「ほふり場に引かれて行く小羊のように、彼は口を開かない。」(イザヤ53:7)

5番目。聖書の詩篇22篇1-2節の預言。

「わが神、わが神。どうして、私をお見捨てになったのですか。遠く離れて私をお救いにならないのですか。私のうめきのことばにも。」(詩編22:1)

そして、成就は、マタイの福音書27章です。

「三時ごろ、イエスは大声で、『エリ、エリ、』これは、わが神、わが神、と言う意味です。「レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。」これは、なぜ私を見捨てたのですか、と言う意味です。「これは、『わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。』という意味である。」(マタイ17:46)

6番目。詩篇22篇7-8節にこうあります。

「私を見る者はみな、私をあざけります。彼らは口をとがらせ、頭を振ります。『主に身を任せよ。彼が助け出したらよい。彼に救い出させよ。彼のお気に入りなのだから。』」(詩篇22:7-8)

何というあざけりでしょう。そしてもちろん、マタイの福音書27章です。

「同じように、祭司長たちも律法学者、長老たちといっしょになって、イエスをあざけて言った『彼は他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王さまなら、今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから。』」

ところで、もしイエスが十字架から降りられても、彼らは、間違いなく信じなかったでしょう。そして、もちろん、

「『彼は神により頼んでいる。もし神のお気に入りなら、いま救っていただくがいい。「わたしは神の子だ。」と言っているのだから。』イエスといっしょに十字架につけられた強盗どもも、同じようにイエスをののしった。」(マタイ27:41-44)

興味深くありませんか。ほとんど逐語的ちくごてきに(書かれている通りに)、旧約の預言のことばが新約で成就しているのです。

7番目。詩篇22篇15節。

「私の力は、土器のかけらのように、かわききり、私の舌は、上あごにくっついていて、あなたは私を死のちりの上に置かれます。」(詩篇22:15)

そして、マタイの福音書27章48節。

「また、彼らのひとりがすぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。」(マタイ27:48)

詩篇22篇17-18節。

「私は、私の骨を、みな数えることができます。彼らは私をながめ、私を見ています。彼らは私の着物を互いに分け合い、私の一つの着物を、くじ引きにします。」(詩篇22:17-18)

詩篇にある、何と驚くべき預言でしょうか。そして、ヨハネの福音書19章23節です。

「兵卒はイエスを十字架につけると、イエスの上着を四つに分け、四人の兵卒が、めいめいその一つを取った。また下着を手にとってみたが、それには縫い目がなく、上の方から全部一つに織ったものであった。」(ヨハネ19:23)

これでお分かりでしょう。イエスが十字架にかかるという話の中で、神が管理しておられないものはない、と。つまり、神の手に負えなくなったとか、神に次善策が必要になったとか、イエスには、より良い解決策があり得たとか、一つ大きな誤りが起こって、私たちは、その代償を支払っている、とかではありません。大きな誤りが何か、分かりますか? 私たちが、ある意味で、現在まで弁済し続けている大きな誤りとは何でしょう。もちろん、それは十字架ではありませんよ。十字架は必要な事だったのです。その大きな誤りは、創世記3章にあります。それが大きな誤りなのです。そして、創世記3章以来、キリストがそうする事が、必要になったのです。

さて、十字架とは何で、誰が使い始めたのでしょうか? とても興味深い事ですが、複数の古代文明や文化で、十字架刑の事が記録されていますが、歴史家が最も頻繁にその慣習の考案者として認めるのは、ペルシア人だとも言われています。最も古い記録はヘロドトスによるもので、そこには、ダリウスが三千人のバビロンの住民を十字架刑に処した、とあります。正直に言うと、私はアレクサンダー大王だと思っていました。しかし、^{たくきん}沢山の文献を読んだ結果、それより前の事だと分かりました。ペルシアに起源を持つ十字架刑は、そこからアッシリア人、スキタイ人、タウリカ人、トラキア人、インドの諸民族、ゲルマン人、ケルト人、ブリトン人、ヌミディア人、そしてもちろん、カルタゴの、カルタゴ人にまで広まりました。ギリシャ人とマケドニア人も、ペルシア人から十字架刑を取り入れたと信じられています。私は、いつもアレクサンダー大王が始めたものだ、と思っていました。しかし、アレクサンダー大王はペルシア人から取り入れたのだ、と分かりました。ローマ人の哲学者セネカは紀元前4年から紀元65年の間に生きた人ですが、このように書いています。

「このような死を好む人がいるだろうか。痛みの中で衰弱し、一肢ずつ死に、命を一滴ずつこぼれ落としながら死ぬのを、一息に死ぬよりも好む人はいるのか。」

言い換えれば、一気に死ぬ方が良くありませんか? 恐ろしく、^{かんまん}緩慢な死よりも。

「これを自ら望む者はいるだろうか。呪われた木に打ち付けられて、長い時間弱々しく、既に奇形して、肩や胸には、醜い鞭の腫れ跡ができ、長びく苦しみの中で、命の息を吸い込む。十字架につけられる前でさえ、死んでいても、おかしくはなかった。」(小セネカ, Moral Epistles, c. AD65)

十字架刑は、ただ実際にそこにかかるだけではないのです。それは、何か別のものから始まります。むち打たれ、打ちのめされ、首の後ろに横げた(梁)のような物を置かれ、その周りに手を結びつけられます。そして、連れて行かれた先で、その横げたと手と足を、立っている木に、その時点で釘付けにされます。古代ギリシア人は、犠牲者を平らな板に固定していました。時には、ただ恥をかかせ、罰を加えるためだけに。一定の期間、木の厚板に釘付けにされている間、彼らは拷問に耐えました。その後、犠牲者は解放されるか、別の方法で処刑されました。しかし、プラトンによると、ギリシア人は、十字架刑による死を極刑の一つとして採用していました。歴史的に、十字架刑は、アレクサンダー大王の支配下において一般的になった事が確認されています。彼は、ティルス人の街を征服した後、二千人のティルス人を処刑しました。現在のレバノンのティルスの町です。ローマ人による十字架刑は、恐らくカルタゴ人、カルタゴから取り入れられたもので、その慣習は、その規模も過酷さも増していきました。ローマの帝政期の間、十字架刑は、おもに何のために取っておかれたかと言うと…誰に? 何に対して? 反逆者、脱走兵、外国人、軽蔑された敵、捕虜となった軍隊、奴隷、最も暴力的な犯罪者、国家への大逆罪で有罪になった者に対して、です。考えてみて

ください。ローマ形式の十字架刑は、旧約聖書の中でユダヤ人によって用いられてはいません。少しも、です。彼らは、十字架刑を、最も酷い、呪われた死に方の一つだと見なしたからです。どうして、それが分かるのか?なぜなら、申命記に書かれているからです。申命記21章にこうあります。

「もし、人が死刑に当たる罪を犯して殺され、あなたがこれを木につるすときは、その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬しなければならない。木につるされた者は、神にのろわれた者だからである。あなたの神、主が相続地としてあなたに与えようとしておられる地を汚してはならない。」 (申命記21:22-23)

ですから、ユダヤ人の人々の考え方では、祝福されたメシア、油注がれた者、彼が申命記21章の成就、またはその一部であり得るでしょうか…申命記21章をスライドに出してもらえますか。十字架に対するユダヤ人の問題について。スライドを見て下さい。これが、申命記の聖句です。(上記) ちょっと想像して下さい。律法に、「木につるされた人は呪われている」と書かれているなら、次のような事を思いついたりするでしょうか。ユダヤ人の頭に思い浮かぶでしょうか。メシアが、こんな仕打ちを受ける必要があると。もちろん思いません。私は、その時の弟子たちについて考えています。生涯、一度も罪を犯した事のない人、最も謙虚で、最も寛大で、最も優しく、最も愛に満ちて、最も素晴らしく、それまで会った事のなかった様な人が木につるされています。殺人者、盗人、反逆者、あるいは、神に呪われた者とはほど遠い人が。彼らは、それを全く理解できなかったでしょう。だから、イエスは、この事を述べ始めた時に、こう言う必要があったのです。“あなたがたに言います。わたしは生きています。よみがえったのです。あなたがたには、理解せねばならない事があります。これは必要な事でした。全ての事は、成就しなければならなかったのです。”ですから、ユダヤ人の十字架に対する問題は、申命記21章から始まりました。彼らにとって、メシアが十字架にかけられるという考えは、それは立っている木の幹に、十字の形で横げたが付けられたものでしたが、彼らには、それは理解できませんでした。マタイの福音書16章13-23節。

「さて、ピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに尋ねて言われた。『人々は人の子をだれだと言っていますか。』彼らは言った。『バプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。』イエスは彼らに言われた。『あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。』」 (マタイ16:13-15)

ペテロが聖書学校、聖書教師の所に行った事がないのはご存じでしょう。彼は、ラビでも何でもなく、実際、無学なユダヤ人でした。それが、最初に飛びついて言ったのは、ペテロだったのです。

「『あなたは生ける神の御子キリストです。』」 (マタイ16:16)

多分、彼は、自分は何を言ったんだろう、と思っていたでしょう。

「するとイエスは、彼に答えて言われた。『バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、』 (マタイ16:17)

あなたは一度も・・・、大丈夫。変な気がするの分かってる。なぜなら、あなたはそれを学んだわけではないし、誰も教えたわけではないから。明らかに誰もそう教えていない。神の子が、人であり得る、と。神が、血肉を持った人として来る事ができるとは。でも、あなたは正しいのです。あなたは祝福されています。このことをあなたに明らかに示したのは、

「天にいますわたしの父です。ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロ (ペトロス) です。」 (マタイ16:18)

あなたは「小さい石 (訳注：ペトロス)」です。「わたしはこの岩の上に」 (マタイ16:18)、イエスはペテ

口にピリポ・カイサリアを見せます。向こうにある大きな岩。ペトラ（訳注：ギリシア語で岩）。「わたしは...建てます。」ここは他の異教の神々が崇められていた場所です。この異教の世に、わたしはわたしの教会を建てます。

「ハデスの門もそれには打ち勝てません。」(マタイ16:18)

そうです。わたし(イエス)の教会はハデスには属さないのです。ハデスに存在するようにもなりません。ハデスに入る事ありません。ハデスで、世の裁きを待つようにもなりません。それでおしまいです。完了です。マタイの福音書16章。

「わたしはあなたに(天の御国の)かぎを上げます。」そして彼は続けます。21節です。興味深くありませんか? 「その時から、イエスは、…弟子たちに示し始められた。」何をですか? 何を? イエスは…13-23節です。 「イエスは、…弟子たちに示し始められた。」私が言っているのは21節についてです。21節、**「その時から、イエス・キリストは、…弟子たちに示し始められた。」 (マタイ16:21)**

何をですか? (なければならぬ) もう一回。(なければならぬ) 大きな声で (なければならぬ) 彼は、…なければならぬ。彼は、…「かも知れない」、「多分」、「もしかしたら」、ではありません。彼は、エルサレムに行かなければならぬ。彼は、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けなければならぬ。彼は、殺されなければならぬ。彼は、三日目に、よみがえらなければならぬ。ですから、イエスはここで、彼はメシアであり、生ける神の子である事をペテロに認められたばかりでした。そしてペテロは思っています。「ほう、ふふ。分かっていますよ、はは、神が、私に直接語られたんですよ。君たちはどうか知らないけど、私と神は…、ふふふふふ。」そして、ペテロはこんな感じでした。「いいか、みんな。私は一番重要な使徒なんだよ。イエスと話したいかい? 私を通してくれたまえ。では、いいですよ。イエス様、お話になって大丈夫ですよ。さあどうぞ。」ですが、イエスはそこに立って、「わたしは王の王、主の主、わたしはダビデの座に座ろう。そしてペテロ、お前はわたしの代理だ。」とは言われませんでした。イエスは言われました。「言うておくけれど、そうです。わたしは生ける神の子です。わたしはメシアです。わたしは油注がれた者です。あなたがたが待ち望んでいた者です。わたしは律法学者とローマ人の手に引き渡され、苦しみを受け、死に、十字架に架けられ、わたしは葬られ…、」するとペテロは、「な、何ですとおお??」そそそ、そして、ペテロはイエスを脇にお連れして言いました。「そんな事を言うてはいけません!!」ペテロは、イエスを叱責したのです。私の言ってる事が、お分かりですか? 数秒前、ペテロはイエスがメシアで、生ける神の子だと認めました。今、ペテロは、生ける神の子を、脇へ引っ張って行って、ペテロは、受肉した神を引っ張っていき、神を叱責しているのです。

「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずがありません。」

(マタイ16:22)

「こんな死に方は、誰のためですか? 反逆者! 殺人者!、呪われた者! が木につるされます。これは、あなたの死に方ではありません! あなたは、メシアです! 王です! ここにおいで下さい。私たちが何とかします。」ところで、これが当時のユダヤの人々の考え方でした。神よ、私たちがお助けいたします。それで神は言われます。いやいやいや、わたしが、あなたがたを助けるのだ。いえいえいえいえ、私たちがお助けいたします。そこに留まってください。私たちがお助けします。これは証明できますよ。皆さんが、イスラエルに来られたら、カペナウムという場所があります。そこにはシナゴークがあります。そのシナゴークは、逆向きに建てられています。つまり、入り口が間違った場所にあるのです。もし、それについて尋ねたら、

A) え、エルサレムがどこにあるか知らなかったのですか? どうしてシナゴークが反対を向いているのですか?

B) いえいえいえ、シナゴークはエルサレムを向いています。ただ、ドアが違う場所にあるだけです。

A)でもドアは、一カ所がないといけませんよね。そして、祈る人の方向は正反対ですよ?

B)いいえ、私たちはこの向きで建てる必要があったのです。なぜなら、ドアがあの方の山の方に向きますから。そして山の上には異邦人の神がいます。それらが、シナゴグに入り込むかもしれません。おとどまり下さい。私たちがお守りいたします。私たちは、シナゴグを反対に向けましょう。だから、誰も入ってきてあなたを害する事は出来ません。

分かりますか?人が、自分たちが神を助けると考える時に神は来られて、人を助けるために手を差し伸べられます。そのために、カペナウムはソドムやゴモラにたとえられたのです。そして、こうあります。

「カペナウム。(中略)おまえの中でなされた力あるわざが、もしも、ソドムでなされたのだったら、ソドムはきょうまで残っていたことだろう。」(マタイ11:23)

ですから、イエスが言われた事に対するペテロの反応は、ユダヤ人全体の十字架への当惑をさらけ出したのです。ペテロは、ユダヤ的な考え方では、この事実を理解することが出来ない事を明らかにしたのです。つまり、神、そしてその使者、油注がれた者が、…「私は、彼が神の子だと認める」としても、それでもペテロは、メシアが気につるされ得るといふこの事実を理解する事が出来ませんでした。それで、ペテロは、どうしたか?彼は、イエスを脇に連れて行って叱責しました。そして、イエスは何と答えられましたか?

「『下がれ。』(マタイ16:23)その続きは? (サタン)そして、ペテロは、「おおお、あなたは私を幸いな者だと言ったのに。私は神から示してもらって友達になったのに、サ、サタン?!」そうです。なぜなら、悪魔だけがわたし(イエス)が死ぬのを望まないから。それを、わたしに成就させたくないのは、悪魔だけです。「必要な事」を。わたしが、この任務から逃げ出すのを望んでいるのは、悪魔だけです。

「『下がれ。サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。』」(マタイ16:23)

イエスは、要するにこう言われました。神の事とは、わたしが苦しまねばならない、という事。わたしは、十字架につけられねばならない。わたしは、まず死なねばならない。最初に死ぬ事なしに、どうやってよみがえることが出来るでしょう。人の事とは、メシアは、こうした事のために来るはずではなく、ただ王座に座り、統治し、敵を打ち負かし、平和と繁栄をもたらすべきだ、と。それだけです。今ここで!もし、これでも足りないなら、その次に、次の章では言うまでもなく、イエスは、彼を^{へんぼう}変貌の山に連れて行かれます。

「そして彼らの目の前で、御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。しかも、モーセとエリヤが現われてイエスと話し合っているではないか。すると、ペテロが口出してイエスに言った。『先生。私たちがここにいることは、すばらしいことです。』(マタイ17:2-4)

ペテロはこんな感じでした。おお、これは凄い。私はエリヤ、モーセ、イエスの隣にいる。名誉回復したぞ。やったね!皆さんの為に小屋を建てましょう。イエスは言われました。それは違う、と。

「彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲がその人々を包み、そして、雲の中から、『これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞きなさい。』という声がした。」(マタイ17:5)

言い換えると、ペテロ、静かにしなさい、イエスの言う事を聞きなさい、と。

「弟子たちは、この声を聞くと、ひれ伏して非常にこわがった。」(マタイ17:6)

私はこれを「インマヌエルの瞬間」(訳注:「神がともにおられる」)と呼んでいます。神が私たちとともにおられる。

「すると、イエスが来られて、彼らに手を触れ、『起きなさい。こわがることはない。』と言われた。それで、彼らが目を上げて見ると、だれもいなくて、ただイエスおひとりだけであった。」(マタイ17:7-8)

モーセとエリヤは去り、イエスがそこにおられました。

「彼らが山を降りるとき、イエスは彼らに、『(中略) いま見た幻を、だれにも話してはならない。』と命じられた。」人の子がどうする時まで? 「死人の中からよみがえるときまで」(マタイ17:9)

イエスは言われました。「君たち、わたしは死ななければならない。そして、わたしが死ぬまでは、この事を誰にも言ってははいけません。」なぜなら、今、人々に言ってしまうと、どうなるでしょう? 彼らは、わたしを肩に担いで、エルサレムで統治するために連れて行こうとするでしょう。なぜなら、彼らは理解しないだろうから。わたしは、まず統治するのではない、という事を。わたしが、全ての人のための究極の犠牲を提供する前に。使徒の働き5章29-30節。

「ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。『人に従うより、神に従うべきです。私たちの先祖の神は、あなたがたが、十字架にかけて殺したイエスを、よみがえらせたのです。』」(使徒5:29-30)

彼らは、常に木につるされる事に触れ続けています。なぜなら、それは彼らにとってトラウマになるような体験だったからです。ローマ人への手紙9章33節にはこうあります。

「『見よ。わたしは、シオンに、つまずきの石、さまたげの岩を置く。』(訳注:不愉快な岩) (ローマ9:33)

皆さんは気分を害するのです。わたしが木につるされる事に。

「彼に信頼する者は、失望させられることがない。』」(ローマ9:33)

さて、私たちがまず理解したのは、1世紀のユダヤの人々が、十字架刑そのものに問題を抱えていた事です。それは、とても恥ずべき事で、ユダヤの人々が、メシアについて知っている事や考えている事とは無縁の事でした。彼らは十字架刑を恐ろしいものと考え、決して自分たちでは行いませんでした。それほど、ひどい印象を持たれていたのです。しかし、彼らが夢にも思わなかったのは、メシアが十字架にかかる必要がある事でした。覚えているでしょうか。コリント人への手紙第一には、こうあります。

「知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のこぼの愚かさを通して、信じる者を救おうと、定められたのです。ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシヤ人は知恵を追求します。しかし、私たちは(中略) キリストを宣べ伝えるのです。」(第1コリント1:20-23)

どんなキリストですか? (十字架につけられた) 「十字架につけられたキリストを」(第1コリント1:23)

ユダヤ人にとっては、もし、あなたが信じていなくて、まだユダヤ的な考え方を保っているなら、これは何ですか? つまずき、です。

「異邦人(ギリシヤ人)にとっては愚かでしょうが、しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。なぜなら、神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。」(第1コリント1:23-25)

さて、皆さん理解しましたね。ここに、もう一つ問題があるのです。人々はメッセージにも、問題を抱えているのです。ユダヤの人々は、次の概念自体を受け入れがたく思っていました。それは、自分たちには問題

があって、その問題は、誰か他の人の死によってしか解決できないという概念です。今日に至るまでも、ユダヤ人は、自分次第だと信じています。断食し、祈り、教え、歌う。こういうこと全て。ヨム・キプール、つまり贖罪の日は、何が目的だと思いますか? 25時間断食して、よし、やったぞ! 要するに、自分の事なのです。良い行い、ミツバ(訳注:戒め)、戒律。私たちは良い行いをします。そうすべき。もし、律法を守れなくても、少なくとも私たちが努力したかどうか、神が私たちの心をご覧になるのです。努力も良い行いに数えられます。要は、「すべき、すべきでない」であり、肝心なのは、自分自身の事なのです。自分たちの救済が、実際には、自分たちの良い行いに基づくものではないという考えは、ユダヤ人にとって異質なもののなのです。彼らは、死刑としての十字架に問題を抱えていただけではなく、十字架のメッセージの考え方にも問題を抱えていたのです。私はあなたがたにキリストを、十字架につけられたキリストを宣べ伝えま。メシアが、あなたの為に十字架にかかりました。彼はあなたのために死にました。彼はあなたのために苦しみ、「彼の打ち傷によって、私たち(あなたがた)はいやされた。」(イザヤ53:5)

これは、彼らにとって受け入れ難い事なのです。今日に至るまでもです。興味深いのは、お伝えしますが、つまり、ルカの福音書9章に戻りたいと思います。それと、マルコの福音書8章にも。それから、ルカの福音書14章。共通のテーマがあります。読んでみましょう。

「それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、」マルコの福音書8章です。「彼らに言われた。『だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。』」(マルコ8:34)

ところで、これはイエスが十字架にかかれる前の事です。イエスは、ここで何か、十字架に関する事について言及しています。しかし、それは十字架の上で死ぬ事についてはありません。イエスが言われた事を見てください。聞いてください。

「イエスは、みなの方に言われた。『だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。』」(ルカ9:23)

そして、聞いてください。私は、これに悩んでいました。私は、自分を十字架にかけて、十字架を抱えて、イエスの後についていくのか? イエスは私に、十字架に架かるように言われているのか? この要求は何なのか。ルカの福音書14章。

「自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。」

(ルカ14:27)

イエスの十字架を負う、とはどういう事ですか? それから、私はギリシャ語を見ました。私は、イエスがこう言われた時、具体的にどういう意味で言われたのか明らかにしないといけなと思いました。なぜなら、イエスはまだ十字架にかかっていないからです。これは、その事ではないのです。これは何か他の事です。イエスはご自分の十字架の事を言っているのでもない。私の十字架の事です。イエスは、実際こう言われるのです。もし、あなたが自分の十字架を負わないでついて来るなら、あなたは、わたしの弟子とは言えない。私は思いました。あなたは一体全体、何の事を言っておられるんですか? それで、私は、ルカの福音書9章23節を開いて、ギリシア語で読みました。そして私が発見したのは、十字架という言葉は、「スタウロン」です。ここでは、実際には「スタウロス」です。画面上、三列目、最後から二番目の語です。「スタウロス」です。新約聖書のギリシア語は4つの動詞を用います。そのうち3つは、「スタウロス」が基になっています。通常は、十字架と訳されます。最も良く用いられるのが「スタウロウ」で、「十字架にかける」という意味で、43回使われます。次が、「スタウロウ」で、「〜と十字架につける」失礼しました。「スタウロウ」です。「〜と一緒に、または並んで十字架にかけ

σταυρός —スタウロス—

ローマの十字架の横木; 横げた、梁(ラテン語、パティルム)は、直立した部材の、一番上に付けられ、大文字の「T」を形成しました。この横げたは、犯罪者が背負わされたものでした。

—梁(ラテン語、パティルム)

画面上、三列目、最後から二番目の語です。

る」という意味です。5回、用いられています。そして、"アナスタルロウ"は、「再度、十字架にかける」という意味ですが、ヘブル人への手紙6章6節で一度用いられているだけです。"プロスベグノミ"は、「固定する、～に打ちつける」の意味で十字架にかけることを、暗示しています。使徒の働き2章23節で一度用いられているだけです。英語の"クロス (十字架)"という語は、ラテン語の"クルクス"が語源ですが、このラテン語の"クルクス"が古典的に指したものは、犯罪者を処刑して、つるすために用いられた、木や木製の構造物全般でした。後に、この単語は十字架だけを意味するようになりました。英語の"クルシフィクス (十字架)"は、ラテン語の"クルシフィクスス"、または、"クルシ・フィクスス"に由来していますが、それはラテン語の、"クルシフィグレ"または、"クルシ・フィグレ"の過去分詞受動態で、「十字架にかける」、または、「十字架に打ちつける」という意味です。

では、要点です。ちょっとこれをご覧ください。スライドをお願いします。ギリシア語の"スタウロス"は、ローマの十字架の横木の事です。実際には、「横げた」の事で、ラテン語では、"パティブルム"と呼ばれますが、直立した部材の一番上につけられ、大文字の"T"の形になりました。この横げたは、犯罪者が背負われたものでした。梁（はり）、ラテン語で"パティブルム"は、直立した部材の一番上につけられ、大文字の"T"を形成しました。いいですか?それは理解できましたね。さて、このスライドが、今、お話ししてきたものです。何が見えますか?これが、イエスが、あなた自身に関して言われた単語、言葉なんです。だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分の"スタウロス"を負いなさい。それは、このスライドにある、横げたの事です。それは重く、不快なものでした。そして、これはある意味、私たちの肉に反するものでした。皆さん、私は、この事について葛藤していました。イエス様、何を言われようとしておられるのですか?私は文字どおり、物理的に、自分を横げたに結びつけて、あなたに従う必要があるのですか?もちろん違います。イエスが言おうとされた事は、「自分を捨てなければならぬ」という事です。それが、イエスの言われた意味でした。だれでも、イエスに従いたいと思う者は、何をしなければいけません



か?自分を捨てるのです。それは重い荷です。それは人々の考え方に反するものであり、人々の肉に反する事でした。これは重いものです。重要なのは自分の事ではなくイエスの事だと思い起こすのです。自分には何もなく、重要なのは、イエスだけだと思い起こすのです。例を挙げましょう。聖書には、ユダヤの人々に向けてこう書かれています。贖罪の日には、身を戒めなければならない、と。「断食する」という単語は一切使われていません。本当です。神は、贖罪の日には、ユダヤの人々に断食を求めた事は一度もありません。神は何を求めておられますか?身を戒める事です。身を戒める、とはどういう事でしょうか。身を戒めるとは、自分は重要ではないと理解する事です。それは、自分の肉に反するものであり、自分の意志に反するものであり、自己に反するものであり、自分の自我に反するものです。あなたは、自分を救う事は出来ません。あなたには、自分を救う力はありません。あなたには、自分を救う能力がありません。あなたの救いは、ただ、神が、あなたに対してではなく、イエスに何をされているかに関係するものです。あなたは、自分を十字架にかけてみることは出来ます。もしそうしたいなら。でも、それでは救われません。しかし、もしイエスを信じるなら、十字架につけられたイエスを信じるなら...。イエスは、十字架にかかる必要がありました。なぜなら、その死が、神に呪われた者が木につるされていきました。イエスが完全な贖いとなり、完全ないけにえの動物となるためには、その死が必要でした。そうしたら、あなたは救われるのです。ところで、ユダヤの人々は、最終的にキリストを拒絶した事と、彼を十字架にかける事を望んだ事を悔い改めることとなります。事実、ヨハネの黙示録、ヨハネの福音書、そして、もちろんゼカリヤ書では、「彼を突き刺した者たち」という言葉が現れます。ヨハネの黙示録1章7節。

「見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。」 (黙示録1:7)

この聖句はヨハネの黙示録1章7節ですね。「彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。」(黙示録1:7)

ゼカリヤ書12章・・・、バリーさん、ちょっと手伝ってもらえませんか?この節です。ヨハネの福音書1章7節は間違いだったと思います。ゼカリヤ書12章10節。

「わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。」 (ゼカリヤ12:10)

ユダヤの人々は、患難時代の終わりにイエスが地上に再臨する際、悔い改め、嘆き、泣きます。彼らが、自分たちが突き刺した者を見る、その時に。

さて、あと4分残っていますが、皆さんに言います。今日、ほとんどのユダヤ人にとって、実際に問題になっているのは、十字架のメッセージや、実際の十字架刑ではありません。今日の、ほとんどのユダヤ人にとっての問題は、十字架が何のために用いられたか、そして、歴史上、十字架を負っていた人々に対するものです。私が話しているのは、ビザンチン帝国、十字軍、ユダヤ人大虐殺に関わった人たち、ナチス、白人至上主義者、これらの全ての人々が、十字架を用いていました。彼らは皆、十字架を身に付けていました。彼らは皆、十字架の名において悲惨な虐殺を行っていたのです。十字軍、つまり、西ヨーロッパからのカソリックの騎士たちが、最初は、主にフランスからでしたが、彼らがヨーロッパを横断した時、彼らは、ドイツにいたユダヤ人のほとんどを殺しました。少なくとも1万人。彼らは聖地へ向かっていましたが、聖地へ入る際、彼らがエルサレムに入る時、当時、ユダヤ人とイスラム教徒は、エルサレムで平和的に共存していました。イスラム教徒が統治していましたが、ユダヤ人も居住していたのです。十字軍は、全てのユダヤ人をエルサレムのシナゴグに閉じ込め、生きたまま焼き殺しました。彼らはその際、十字架を高々と掲げ、^{かか}「私たちは、キリストに全ての栄光を帰します」と言ったのです。何千人ものユダヤ人が生きたまま焼き殺されました。十字架が掲げられ、そして、この全ての事のために、キリストが賛美を受けるとされていました。同様の事が、イスラム教徒に対しても行われました。だから、この20年の間、オサマ・ビン・ラディンが、まだ生きていた時、それと、もちろんアブー・バク・アル=バクダディが存命していた時も、彼らは、クリスチャンの事を、決してクリスチャンとは呼びませんでした。彼らは、クリスチャンの事を「十字軍」と呼びます。なぜなら、彼らはクリスチャンに、自分たちがいかに残酷であったか、そして、クリスチャン、十字軍が、イスラム教徒を、どれだけ虐殺したかを思い出させたいのです。十字架の名において、そしてキリストの名において。ナチスは、彼らの制服の至る所に十字架をつけていました。言わせていただきますが、ヘブライ語ではヘブライ語で、"スワスティカ (かぎ十字)"を"ツラヴ・ケレス"と呼びます。鉤の付いた十字架という意味です。言い換えると、十字架という単語は、スワスティカを説明するための語なのです。十字架と言うのはそれくらい恐ろしい死刑の方法である以上に、理解し難いメッセージである事以上に、十字架そのものが、あまりに多くの恐ろしい人々によって使われたために、ユダヤの人々は、それに対して問題を抱えてきたのです。もちろん、白人至上主義なども同様です。ヨハネの福音書16章にこうあります。

「これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがつまずくことのないためです。人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。事実、あなたがたを殺す者がみな、そうすることで自分は神に奉仕しているのだと思う時が来ます。彼らがこういうことを行なうのは、父をもわたしをも知らないからです。」

(ヨハネ16:1-3)

イエスは、彼らがイエスの名によってそれらの事をするだろう、と言われたのです。神のためだと。しかし、彼らは、父もわたし(イエス)も知らないのです。彼らは、あなたを会堂から追放し、こぞって虐殺するでしょう。

話を終える前に、最後に言います。影を実体にしないでください。十字架とは、メッセージです。十字架のメッセージは、神がそのひとり子をお与えになった事です。私たちのために、まず死に、それから、死に打ち勝って、私たちに永遠のいのちを与えるために。私たちの救いの代価は、すでに十字架の上で支払われています。十字架はメッセージです。不幸な事に、今日それは、ただのお守りになりました。それは今日、私

たちがそのためになら殺しもするという、シンボルとなりました。私たちは、メッセージをシンボルに変えてしまいました。私たちは影を、実体にしてしまいました。ところで、ユダヤ人も同じです。神は、ご自分のことばを守るよう告げ、図を使って説明されました。わたしのことばを、額の上に置きなさい。(申命記 11:18参照) わたしのことばを、手に結び付けなさい。入る時も、出て行く時も、わたしのことばを守りなさい。ユダヤ人は何をしましたか? 彼らは箱を準備して、手の上に乗せ、もう一つの箱を額に乗せ、別の箱をドアの脇に置き、彼らはメッセージを取り、影を実体にしたのです。私に言わせれば、それはとても危ない事です。

「聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。私がいよいよ、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。これをしるしとしてあなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。これをあなたの家の門柱と門に書きしるしなさい。」(申命記6:4-9)

彼らは、文字通り、これを実行したのです。そして、それは、彼らにとって偶像となりました。彼らが入る時は、それにキスをし、出る時も、それにキスをするのです。彼らは、それにキスしなければならず、キス、キス、キス…。これらの事だけが重要になったのです。クリスチャンの皆さんにとって、十字架は、お守りですか? それともメッセージですか? 十字架のメッセージを忘れないようにしましょう。それは今でもつまずきの石です。しかし、今、皆さんは少なくとも、ユダヤ人の考え方を理解されました。十字架にまつわる歴史と、かつてメッセージであったものから偶像となったものに対する彼らの侮蔑を。

お父様、私たちはあなたのイスラエルのためのご計画に感謝します。今の所は、十字架のメッセージと十字架は、彼らの気分を害するものです。お父様、私たちは、多くの点でそれを助長してきました。十字架を、あなたの救いのメッセージから、お守りや偶像に変えてしまう事によって。お父様、あなたがお戻りになり、彼らが自分たちが突き刺した者を見るまで、私たちがメッセージを説明するのを、お助け下さい。つまずきにならないように、あなたの民の心に届くための障害にならないように。

感謝します。あなたをほめたたえます。私たちは、ユダヤ人の救いのために祈ります。大患難時代を経験する人たちができるだけ少ないように。しかし、お父様、その時まであなたの御心が行われる事を、私たちは知っています。天になるごとく、地においても。あなたの御名をほめたたえます。私たちは、イスラエルの聖なる方の御名によって求めます。そのお方は、不幸にも、創世記3章のために苦しみを受け、死に、葬られねばなりませんでした。なぜならそれが必要だったからです。そしてもちろん、その方は三日目によみがえられました。なぜなら、死は、彼をそこに留めておく事が出来なかったからです。私たちは、よみがえられた主に感謝します。私たちはよみがえりの力に感謝します。私たちは皆、御霊によって歩む時、それを穫り入れることが出来ます。私たちはあなたをほめたたえます。

イエスの御名によって。

アーメン。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>
ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.08.05 (Wed)